

2026 DSF 中間発表会 in Osaka

Document Service Forum

1997

FORUM AIMED AT ENABLING
TRANSFORMATION (D)
CREATE THE NEW DE FACTO
DEMAND PRINTING.

2026 Document Service Forum Reports Vol.71

DSFホームページ 2026年5月更新

<https://www.fujifilm.com/fb/ja/solutions/industry/printing/dsf>

去る7月3日、大阪にて『2026年DSF中間発表会』が開催されました。関西地区での開催は2015年の中間発表会を京都で開催して以来となります。

午前中は株式会社アピックス様の会社見学を実施し、中間発表会の会場となる大阪エクセルホテル東急に移動しました。梅雨時期ではありましたが当日は雨も降らずスムーズに会を進めることができました。また特別講演として、「AI活用の"格差"に終止符を！」～富士フイルムビジネスイノベーションのAI戦略～と題して富士フイルムビジネスイノベーション取締役常務執行役員の鍋田氏にお話をいただきました。



《株式会社アピックス様 会社見学会》

10:30より会社見学会がスタートしました。当日は約30名の会員の方々にご参加いただき、アピックス様のBPOリンクでは岡本様よりBPO業務の概要説明を、その後本社に移動して各フロア毎に業務フローのご説明をいただきました。大阪産業創造館に場所を移して、河村社長より会社の歴史や事業の概要についてのご説明があり、続いて岡本様、増田様より各事業の詳細をご説明いただき、見学は終了となりました。



河村社長 事業説明



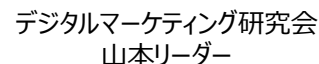
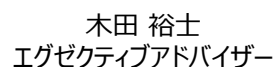
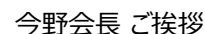
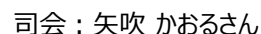
中間発表会は富士フィルムビジネスイノベーションジャパンGC営業統括部の矢吹かおるさんの司会進行で始まりました。
サッカーワールドカップや大阪ならではの文化や歴史の話に触れ、会の進行をスタートしました。

DSF中間発表会への参加のお礼を伝えられ、合わせて開催地大阪のアピックス河村社長、事務局への謝辞を述べられました。ワールドカップに関連した話題から、個人・組織・戦術の重要性を示唆され、東北大学元教授が「中小企業の1%が新事業で“実現”に至れば大きな雇用・経済効果」を生むという話を紹介されました。大事なのは挑戦するだけでなく「実現する」ことで、小さな成功の積み重ねが大切であり、それを研究会活動で推進、それぞれの会社で実現する流れに繋げていきたいと思います。

次の成果発表会にも顔を出させていただく予定ですので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。とご挨拶されました。

このあと各研究会の発表に移りました。各研究会ともにこれまで密度の濃い議論を重ねてきており、ここまでの進捗について各リーダーからの発表に入りました。

後半は、直面しているこうした課題の解決に力を入れて、実際の営業現場で成果を出せるようにみんなで一緒に取り組んでいく予定です。引き続きよろしくお願いします、と述べられました。



- 各社の具体的なツール活用・成果事例の共有（事例発表）
- MA・SFA・Revoria Cloud Marketingの活用深掘りと、AI活用・SEO・Web広告最適化、LP改善などで実務に踏み込む。
- 共同研究・グループワークの推進
「実務とAIをつなぐ現場定着」「AI時代のWebの価値の再定義」等をテーマに、POC（概念実証）として参加各社が協働で検証・共有を行う。

【人財育成研究会】

●リーダー：河北印刷株式会社 中條 遥 社長

今年度のテーマは「経営感覚を持つリーダーを育てること」です。経営層の考えが現場に伝わりにくいギャップを埋めるため、メンバーは経営の現実に触れて、自分の感じ方や立ち位置を学び、経営感覚を身につけることを目指します。目標は、メンバーが経営感覚を持ち、現場での適切な判断と、他部署との連携で課題を解決し、理想のリーダーに成長することです。

これまでの3回の研究会では、自社や自分の課題を振り返り、経営者との面談を実施することで、経営層とのギャップを感じたり、経営課題を整理して自分の考えをまとめました。経営層とメンバーとの視点の違いも明らかになりました。メンバーは売上や利益など短期的な数字に注目しがちですが、経営層は数字は手段であり、一番大事なのは「人」で、長期的な視点でバランスを考えています。経営層との対話で「数字の先にある人の大切さ」を実感できたのは貴重な経験でした。

経営層との対話や他社事例を通じて意識が変わったこと、特に営業や他部署との関わり方や部下の育成について関心度が高まりました。経営層に言われるのを待つのではなく、自分の言葉で経営のリアルを語れるリーダーになってほしいと思っています。後半にも経営層との対話を深める予定です。学んだことを行動に移して、理想のリーダーを目指せるよう全力でサポートしていきます。と括られました。

【DX研究会】

●リーダー：株式会社オーディーピーセンター 林 敬太 会長

今回は12社24名が参加し、生成AIや現場改善について情報交換を行い、「まず試してみる」「現場で使えるか考える」「成功も失敗も共有する」という姿勢で3回の研究会を実施しました。テーマは「AI、現場改善、共有資産化」。生成AIについてまずは現場で小さく試し、その結果を共有して資産化することを重視しています。

活動の流れは、

4月：活動方針と各社の取り組みテーマ決定

5月：AI活用の方向性共有

6月：外部講師によるシステム紹介や生成AI動画作成チャレンジ

また、現場での取り組みは大きく4つに分かれます。

1. DTP・制作補助（自動化やラベル作成など）
2. 事務・管理効率化（議事録作成や勤務管理など）
3. 教育・社内展開（教育動画作成やAI活用事例共有）
4. 顧客管理・販促（AIアプリ開発や画像生成活用）

AIを自社の現場に合った使い方を模索する段階に進んでいます。また一方で共通課題もあります。

- ・ガイドラインやセキュリティのルール作り
- ・特定担当者への依存（属人化）
- ・AIの誤情報（ハルシネーション）対策
- ・効果測定の難しさ

前半は生成AI活用の土台作り、後半は実務への実装を強化し、成功例に加えて失敗例も共有して知見を深めます。AI活用現場見学として異業種の工場見学も予定しています。

一方、もう一つのテーマである「XMF PressReady移行計画」についても株式会社コムラの小森様から報告があり、PressReadyでのワークフロー検証について、動作には問題ないものの操作性や運用面の課題が共通して挙がっています。これらを踏まえ、以下の3つの提言をまとめました。

1. 移行ロードマップの明確化：3年半後の現行システム終了に向け、判断スケジュールを示してほしい。
2. 開発・営業・サポートの一体化：ユーザーの声をメーカー内で共有し、改善を迅速に進める体制を。
3. 伴走型支援の強化：マニュアルだけでなく実務に寄り添った支援や教育、FAQ整備で現場負担を減らしてほしい。

以上が前期の活動と今後の展望のまとめです。と発表されました。



人財育成研究会
中條リーダー

経営者対話で見た視座のギャップ



DX研究会
林リーダー

活動テーマ

AI

×

現場改善

共有資産化

各社テーマの全体像

DTP・制作補助 ・コムラ・VBA/InDesign自動化 ・業務効率化：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化	事務・管理効率化 ・労務管理：勤怠管理 ・労務管理：勤怠管理 ・労務管理：勤怠管理
教育・社内展開 ・AI活用：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化	顧客管理・販促 ・AI活用：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化

前半で見えてきた初期成果

制作補助の検証 ・AI活用：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化	顧客管理・販促 ・AI活用：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化
制作・校正の検証 ・AI活用：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化	外部連携の検証 ・AI活用：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化 ・AI活用：AIによる自動化



コムラ
小森氏

DX研究会
PressReadyトライアルレポート

要望と期待

1. 移行ロードマップの明確化
2. 開発・営業・サポートの一体化
3. 伴走型支援の強化

【ODPグラフィック研究会】

●リーダー：東洋美術印刷株式会社 根本 一郎 部長

今年度は新たに5名が加わり、19名で活動をスタートしました。また、5月1日にDSFのウェブサイトが「プラザDSF」としてリニューアルされ、各社の事例を発信する場として活用を呼びかけています。今年のテーマは、2年かけて制作した「技術本」をどのように活用し、ビジネスに繋げるかで、デジタル印刷機「Revoria Press」など、各種技術を活かし、受注や売上に結びつけることが重要となります。

前半の研究会では、新メンバー紹介や新素材への印刷の講演、技術本活用やODPグラフィックアワード開催の協議、RGB印刷やデザインツール「Canva」の意見交換、技術本のIPA出展、プラザDSFに載せる事例フォーマットの検討などを行いました。また、とうざわ印刷工芸の澤橋様よりリブランディング事例も紹介され、ロゴやブランドイメージを刷新し、既存顧客への価値提供を強化しています。

後半は8～9月にODPグラフィックアワードの募集・審査・発表を進め、お客様との新しい接点を作り、技術本や事例を全社で共有しビジネス拡大を目指します。

発表の最後に、当研究会担当理事の三恵社木全社長より、①技術本の積極活用 ② ODPグラフィックアワードへの出展 ③プラザDSFへの事例提供の3点をDSF会員全員にお願いされました。

以上でODPグラフィック研究会の発表は終了となりました。



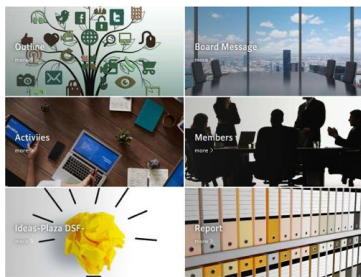
ODPグラフィック研究会
根本リーダー



とうざわ印刷工芸
澤橋 氏

全国のGraphic Arts業界をリードするユーザーコミュニティ

「技術本」のIPA出展



ODPグラフィック研究会
木全 担当理事



RGB印刷は今後拡大していく
出典：技術本2025



とうざわ印刷工芸のリブランディング



デザインの民主化 Canva

印刷会社から「印刷もできる、制作会社」へ
2026年4月1日よりコーポレートロゴをTouzawaとし、リブランディング
コーポレートロゴの策定に伴い、コーポレートサイトもフルリニューアル
新コーポレートサイト：<https://www.touzawa.co.jp/>

【経営者の会】

●リーダー：株式会社明光社 矢野 剛 社長（発表者 事務局）

経営者の会では経営に役立つ情報を共有し、各社がバリューを高められる場を目指していきます。実務に留まらず時代潮流を踏まえた経営情報共有をする場としたいと述べられました。円安・地政リスク・文化交流・AI進化・環境問題等に対する機会をチャンスと捉えていくことが大切であり、以下4つのテーマで進めています。

①「人と組織」②「新技術・設備」③「AI/DX」④「BCP連携」

生成AIに留まらずフィジカルAIの台頭を想定、経営者が主導していくことが必要であり、BCPは地域連携・代替生産・協力体制整備していくことが鍵になりますと話を括られました。



経営者の会
矢野 担当理事

2026年度 活動テーマ

① 人と組織について

魅力ある職場見学の検討

③ AI・DXについて

AI導入の課題（著作権・学習データ・セキュリティ等）に関する勉強会企画
外部講師を招いた講演＋ディスカッション形式の学習を検討

② 新技術や設備について

「新技術を開発するより使う立場」での活用法の検討と経営者目録での活用ディスカッションを実施
各社の独自ドメインを見極め、持続的成長の新領域を探索

④ BCP業務について

BCP（事業継続計画）として地域代替生産の連携枠組みをDSF内で整備検討
業務オーバーフローの際の相互協力
パリアルデータ等の得意分野連携・価格・納期の事前取り決めを検討

今後の活動について

① 人と組織・技術や設備について

アビックス様 見学（本日）
とうざわ印刷工芸様 見学検討中
富士フィルムB1富山事業所 見学検討中

③ AI・DXについて

富士フィルムビジネスイノベーション様からの講演（本日）

④ BCP業務について

各社の設備・対応業務を踏まえた対応可能業務の明確化
業務オーバーフローの他社連携検討
オフセット印刷は減少見込み、オンデマンド印刷には可能性あり

■ 今後の焦点

当初テーマの新技術活用・新ビジネスモデル項目は既存課題と重複するため、今後の活動の焦点を「BCP」と「業務連携」に集約し、経営者の会で最速の検討を進めていきたい。

【社会貢献活動】

●担当理事：株式会社オンデマンド 生島 裕久 社長

社会貢献活動は自分たちのためではなく人のための活動です。2026年度も継続して全国の視覚支援学校様へ「拡大本」の寄贈活動を継続します。昨年は21社にご協力いただきました。平均で30冊程度になります。毎年9月にスタートしますので、皆様ご協力よろしくお願いします。

このような豊かな現代社会においても、不自由さを感じ、困っている方々がいらっしゃいます。そうした方々を支え、社会に貢献していくことが、ドキュメントサービスフォーラム（DSF）の活動における重要な意義であり使命です。皆様の積極的なご参加を重ねてお願い申し上げます。



社会貢献活動
生島 担当理事

2026年 DSF社会貢献活動

全国盲学校様向け

拡大本寄付協力をお願い

担当理事 生島 裕久
2026.7.3



ご参加の協力をお願いいたします。



【開催地DSF会員企業のご挨拶】

●株式会社アピックス 河村 武敏 社長

冒頭、会社見学へのお礼と皆様にとって良いベンチマークになれば幸いですと話されました。AIに関する話に触れられ、この大阪は非構造化に長けておりこのあと続く懇親会や二次会を楽しんでいただきたいと述べられました。

見学会については皆様に有意義な時間を過ごしていただくために社員が事前に準備を重ねてきました。引き続き大阪を堪能してくださいと締めくくりました。



株式会社アピックス
河村 社長

【DSF事務局長挨拶】

●富士フイルムBI株式会社 渡辺 正隆

アピックス様への会社見学のお礼を述べられ、以前営業として担当させていただいたことを踏まえて改めてアピックス様の提供しているサービスが、お客様にしっかりと価値提供されていることについて素晴らしいと感じていますと述べられました。また富士フイルムBIが提供しているワークフローについて、今後の対応について重責を感じています話されました。研究会活動にご参加されているメンバーの方々とても有意義な時間になっていると感じ、いただいた提言についてはしっかりと受け止めましたと述べられました。

最後に皆様の業務課題に寄り添い、解決に導きたいと考えています。プリンター提供にとどまらず、我々が持つソリューションを照らし合わせて、皆様と議論を重ね支援してまいりますと話されました。



渡辺事務局長

【DSF副会長 総評とご挨拶】

●株式会社 コームラ 鴻村 健司 社長

午前中のアピックス様の視察のお礼と、6つの研究会についての総評を述べられました。中間発表会はゴールではなく順位を競う場でもありません。お互いに刺激を受け学びを実績に繋げていき、11月の全国発表大会に向けてさらに議論を深めていただきたいと話されました。

このDSFは新しい技術やマーケットを研究しながら、デファクトスタンダードを創造することを目的に活動しています。地域や会社規模が異なる仲間が集まるこのコミュニティは、決して当たり前ものではありません。DSFの最大の財産は「人」であり、仲間はAIと違って答えではなく「気づき」を与えてくれます。それこそがDSFの存在価値です。技術がどれだけ進歩しても、お客様の役に立ちたい、業界を良くしたいという思いは変わりません。本日の報告からもその強い思いが伝わりました。全国発表大会では、今日以上の大きな成果、そして新しい景色が見られることを期待しております。と話を締め括られました。



鴻村副会長



《全体集合写真》



《リモート参加》

【懇親会】

懇親会は引き続き同ホテルで行われました。

司会進行は山陽印刷株式会社 代表取締役社長の秋山様にお願いし、富士フィルムビジネスイノベーション GC事業本部の加藤役員のご発声でスタートしました。特別講演いただいた鍋田常務にもご参加いただきました。暫くの歓談後、出囃子に乗せて上方落語の「笑福亭里光」さんに登壇していただき、本場の落語を堪能しました。落語の余韻が残る中、恒例の「会員の皆様からの一言」では、開催が大阪ということもあり「最近面白かったことなど、“笑い”を引き出すお話で」というテーマで話をいただきました。司会からみなさんを笑顔にさせてください！ということで指名された方は、それぞれの持ち味を出し、会場を楽しませてくれました。中締めは共立速記印刷株式会社 代表取締役社長 笹井様にお願いし、会がお開きとなりました。



《司会》



《乾杯ご発声》



《笑福亭里光さん》



《懇親会風景》



《懇親会集合写真》



《中締め》

【懇親ゴルフ】

翌日は5組でのラウンドとなりました。曇りのち雨の予報でしたが朝から太陽が覗き、前半の組は雨に降られずプレーできました。後半の組は最後の3ホール雨中でのプレーとなりました。「太平洋クラブ六甲コース」は雄大さと美しさが融合したチャンピオンコースで、1997年（DSF発足の年）のトーナメントが行われた際に、ジャンボ尾崎が「日本に、この18番ホールのようなホールがもっとあれば、日本のプロのレベルは確実に上がる。このコースは高度の技術を有している者でないと制することはできない」とコメントしたという最終ホールを有するゴルフ場です。会員の皆様同士のコミュニケーションが取れ、非常に有意義な時間となりました。終了後のパーティー終了後、一同帰路につきました。



今回もご参加いただいたすべての会員企業の皆様、および準備より携わっていただいた関係各位の皆様のご協力により、2026年中間発表会を無事終了できましたことに事務局より感謝申し上げます。
次回2026年11月25日（水）には2026年全国発表大会を予定しております。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

ドキュメントサービスフォーラム事務局
萬ヶ谷 治
青木 稔